

わがまち紹介



潮来市

暮らしを愉しみ
市民が活躍する「水の郷」

潮来市は風光明媚な水郷地帯

潮来市は、「水郷潮来」といわれるように、湖沼や河川に囲まれた自然豊かで風光明媚な水郷地帯です。

四季を通して穏やかな気候で過ごしやすく、東京まで高速バスを使って約80分と都心に近いことも特長となっています。

また、上下水道などの社会資本整備も進み、コンパクトな都市形成が図られた住みやすいまちです。

「日本一の水路のまち」の実現を目指して

潮来市では、2022年1月に「潮来市 日本一の水路のまち基本計画」を策定しました。これは水郷の歴史や文化を継承しながら、水上レクリエーション等の水路の利活用を進め、市民や来訪者とともに「日本一の水路のまち」の実現を目指すという長期にわたる計画です。

目標の一つには、舟運の再生や拡大による通年型観



「水郷潮来」の象徴である前川

光の実現を掲げています。その第一段階として、水郷潮来の象徴である「前川」を中心に景観形成にかかわる事業を5年、10年のスパンで切り分けて、着実に進めているところです。

これまでも、前川周辺ではかつて水運で栄えてきた潮来の歴史を感じさせるスポットなどの整備に取り組んできました。2016年度に古民家「水郷旧家 磯山邸」を耐震改修整備し、2019年度には石蔵や観光船の舟着き場が整備された広場として「津軽河岸あと広場」



株式会社筑波銀行
潮来支店長
小山 泰正

潮来市長
原 浩道氏

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとのつながりを深めるべく取り組んでいます。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。今回は茨城県潮来市です。筑波銀行潮来支店長 小山 泰正が潮来市長 原 浩道氏にお話を伺いました。



「水郷旧家磯山邸」は1日1組限定で宿泊できる

を完成させました。

また、本市の情報発信機能を持つ拠点施設「道の駅いたこ」(運営主体:株式会社いたこ)に「まちづくり観光事業部」を設立しました。将来的には舟運に関わる人材の育成や船の集積なども視野に入れ、初期の活動として前川の岸辺に花を植えるなど、観光船から見たときに素晴らしいと思ってもらえる水辺の景観づくりに取り組んでいます。

観光船には、かつて潮来の水運を支えた手漕ぎの「ろ舟」を想定しています。現在では作り手のいなくなったろ舟の新造を目指し、船大工の人材育成プロジェクトを検討していきます。

その先に見据えるのは、江戸中期に使っていた千石船や高瀬舟のような大きな木造船を作って観光船として使うことで、当時の水郷地域の状況を再現することです。

本市と鹿嶋市、神栖市、千葉県香取市の4市は水郷観光圏を形成しており、連携して水郷の魅力を全国に発信するとともに、舟運で鹿島神宮、息栖神社、香取神宮を巡る「東国三社詣」の実現に向け、船着場整備などを進めています。

こうした取り組みにより、将来的には水郷観光圏の魅力を一層高め、成田空港や茨城空港からの観光客で賑わう地域にしていきたいと思っています。

本市では、あやめ園や道路、川の護岸などの環境美化活動に、多くの市民や学校の児童の皆さんなどがボランティアとして参加しています。2024年1月には、道を舞台に景観の形成や地域活性化などを図る国土交通省の事業「日本風景街道」で、本市の「いたこ あやめ花街道」が2022年度の活動を評価され、「関東優秀活動賞(特別賞)」を受賞しています。

「日本一の水路のまち」の実現には、こうした活動のように一人でも多くの市民に自ら参画してもらうことが大切だと考えています。

「スポーツツーリズム」による 通年型観光への転換

1952年に始まった「水郷潮来あやめまつり」には毎年大勢のお客様が訪れ、約500種100万株のあやめ(花

菖蒲)と嫁入り舟のイベントを楽しんでいます。ただ、あやめまつりは季節限定であるため、年間を通した観光振興や交流促進が課題でした。そこで、4、5年前から「スポーツツーリズム」による通年型観光の振興に取り組んでいます。

たとえばサッカーでは、前川運動公園内に人工芝サッカー場をもう1面増設、計3面になるサッカー場を整備して本格的な受け入れ態勢を構築します。Jリーグ1部の鹿島アントラーズともタイアップし、高校生などの大会の誘致、大学の合宿の誘致を進め、交流・関係人口の増加を目指します。

また、潮来市はボート競技のメッカでもあります。そこで「全日本中学選手権競漕大会」の誘致活動を展開したところ、2025年7月、約200のクルーが参加するこの大会を本市で開催することが決まりました。

カヌーやボート、サップなどの実証実験、大会を通して水上のスポーツを盛り上げながら、サッカー、野球などとも合わせてスポーツでまちを活性化し、競技者や観戦者などより多くの人に来てもらい、関係人口を増やしていきたいと考えています。



前川運動公園サッカー場

東関東の開通を契機に 産業や医療環境を改善

潮来市と銚田市を結ぶ東関東自動車道水戸線は、2025年度から2026年度に開通が予定されています。これにより本市の交通アクセスは格段に向上することから、2024年度は産業や医療環境の改善を目的とした2つの新規事業を立ち上げました。

産業に関する新規事業は「新産業拠点整備事業」で、東関東自動車道水戸線の整備に伴い、新たに設置される「(仮称)麻生インターチェンジ」周辺に産業用地の創出を目指すというものです。立地企業としては、各種製造業の工場など、市内に雇用を創出し、定住促進につながる企業の誘致を検討しています。インターチェンジができたときに、すぐに産業用地として提供できるように今から準備を進めています。

本市を含む茨城県鹿行地域は、県内でも特に医師不足が深刻な地域で、本市の医療は8つの医療機関に支えられていますが、専門医が在籍していないこと

が課題となっています。

また、本市からの救急搬送は千葉県成田市や香取市の病院へ向かうことがほとんどで、選択肢が少ないことも大きな課題となっています。一方で、東関東自動車道水戸線の開通により、水戸市の病院への搬送が可能となり、救急医療体制の改善が期待できます。

このタイミングでスタートしたのが「特定医療機関誘致助成事業」です。救急医療体制の改善と合わせて地域に必要とされる医療機関を誘致することで、本市の医療環境の総合的な改善を図ります。

この事業は、「小児科、産婦人科または循環器科」を専門的に診療する医療機関等で、市内で10年以上開業する見込みがあることなどを要件に、土地建物取得費助成金3,000万円、高度医療機器取得費助成金3,000万円、開業資金等貸与金3,000万円の計9,000万円を上限に助成または貸与し、取得した土地、建物等に対する固定資産税を3年間免除するというものです。

本市ではこの制度を利用して地域医療を支えてくれる医療機関を全力でサポートしていきます。

地元高校生の提案を まちづくりに活かす

潮来市では、2020年度から潮来市・潮来高校・筑波大学の三者が主体となって取り組む「地域連携事業」を行っています。

地域の課題解決や今後のまちづくり等について、筑波大学が蓄積している知見やノウハウ、地元高校生など若者の自由な発想を活かすことを目的とし、毎年提案・発表を行ってもらっています。

提案にあたっては、潮来高生と筑波大生が国のビッグデータ・リーサスを活用した分析や街なかの現地確認、フィールドワークなどを実施しています。また、ワークショップを通して、筑波大生のサポートを受けながら潮来高生がアイデアをまとめています。

提案の内容は年々グレードアップしており、本市のまちづくりに活かされています。

2021年3月には潮来高校の生徒が企画したオリジナルスイーツ「潮来のいちごとふわふわこめパンケーキ」を道の駅いたこで販売する企画を考案。期間限定で製造から販売まで高校生が手がけたこの商品は好評となり、二千食を販売することができました。

地元高校生による提案は、潮来市にとってかけがえのない財産です。高校生にとっても、自分の住む地域のために考え行動することで、ふるさとに対する愛着が深まると考えています。

今後は民間企業の協力も仰ぎ、産官学の知見を集めてまちづくりに取り組んでいきます。



提案発表を行う潮来高校の生徒たち

妊娠から子育てまで 切れ目のないサポートを実施

潮来市では、2018年から「子育て応援サポート事業」として、妊娠出産から、切れ目のない子育て支援を実施しています。

妊娠・出産時には「妊娠出産者記念品」として、授乳服など7種類から一つを選んでもらいプレゼントしています。これは保護者の方に赤ちゃん連れでも気軽に外出をしてもらいたいとの思いから実施しているものです。

その後も1歳時に絵本、小学校入学時にオリジナルランドセル、中学校入学時に自転車用ヘルメットをプレゼントするなど、節目ごとに子育て支援を行っています。

また、小中学校の給食完全無償化は、県内の市では初めての取り組みとして行いました。

2024年4月には、新たに「こども家庭センター」を開設しました。すべての妊産婦、こども、子育て家庭を対象に相談や支援の充実を図る総合的な窓口としての役割を担います。

本市への定住促進策としては、たとえば東京へ通勤・通学する人を対象に高速バスや電車の定期券購入の補助として月額最大1万円を助成しています。

筑波銀行に期待すること

筑波銀行には、寄贈サービス付SDGs私債『地域の未来応援債』による寄贈をいただき、ありがとうございました。

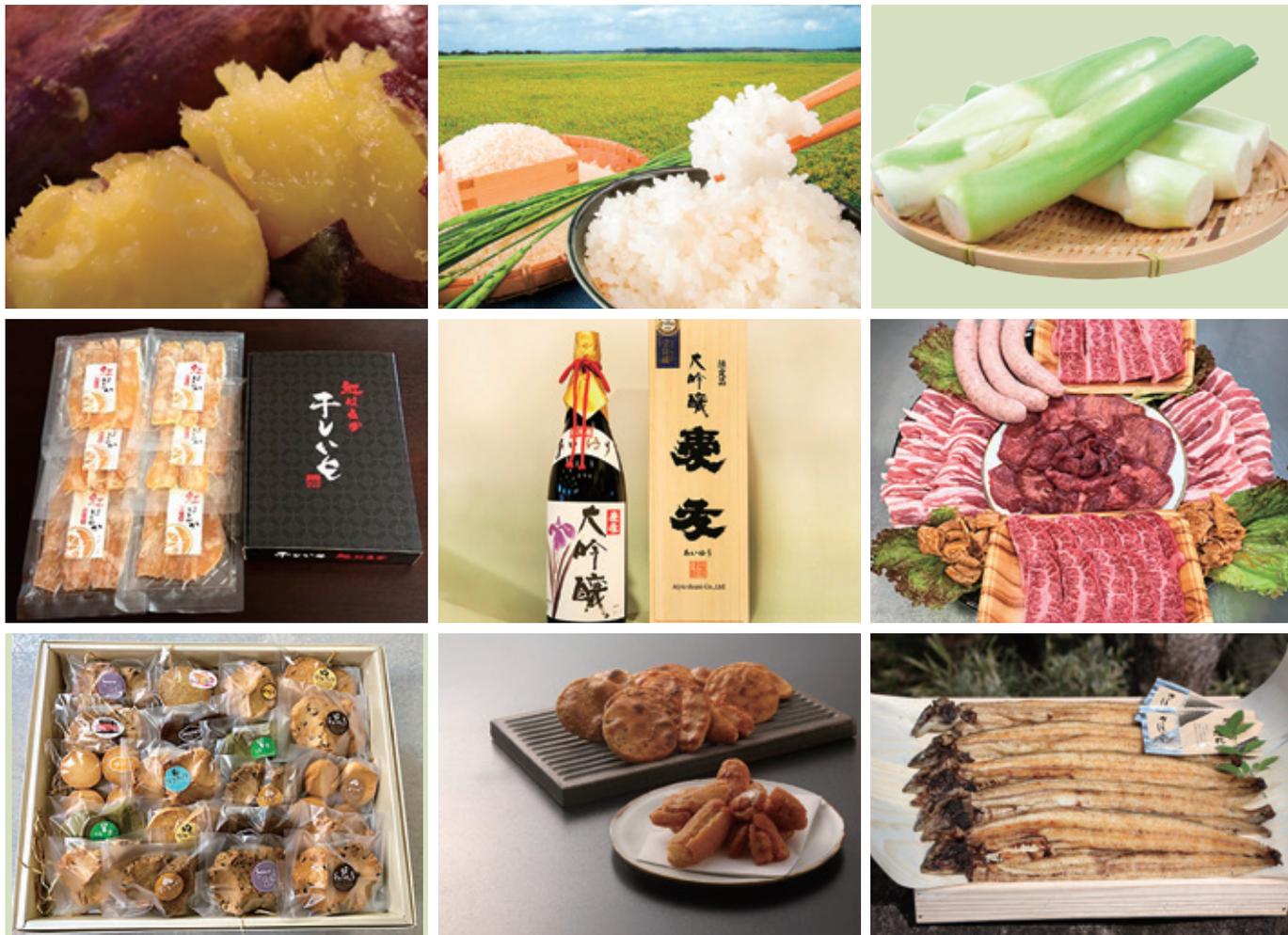
筑波銀行に期待することの一つには、中小企業に対してコンサル的な立場から経営の方向性についてアドバイスしてほしいということがあります。また、コロナ後に事業承継や廃業などで悩んでいる企業も多くあると思いますので、そういった相談にも乗っていただき、寄り添って支えてほしいと思います。

さらに言えば、事業転換や新規事業開発など、企業の挑戦をサポートするような提案をしていただけると幸いです。

(取材日:2024年3月26日)

わがまちの 潮来市 ふるさと納税

このコーナーでは、「支店長のわがまち紹介」で取材させていただいた市町村の施策や事業、取り組みなどを紹介しています。



ふるさと納税で伝える潮来市の魅力

ふるさと納税は、生まれ育った故郷や応援したいと思う自治体に寄附することができる制度です。潮来市にも、全国から「故郷の潮来を応援したい」や「産業と観光の振興頑張ってください」「自然環境を生かした活動を続けてほしい」など、応援の声をいただいています。

ふるさと納税を通して、地場産業を元気にし、全国の皆様に、市の魅力を知っていただくことを目指しています。

本市の返礼品は、水と緑の豊かな自然が育んだ水郷いたこの特産品であり、お米や干し芋、お煎餅をはじめ、日用品や暖房機器など約150品目ございます。

潮来市では、皆様のご期待に応えられるまちづくりを目指すため、ふるさと納税によるご支援をお待ちしております。

また、潮来市は企業版ふるさと納税も活用しております。企業様からいただきました寄附を市の事業に活用し、地方創生に取り組んでおります。



潮来市ふるさと納税・企業版ふるさと納税について詳しくはこちら



暮らしを愉しみ、 市民が活躍するまちづくりを 目指して寄附金を活用

全国からたくさんの応援をいただき、ふるさと納税の制度が始まった2008年から2023年度までに約9万件、約11億円の寄附をいただきました。寄附金は、福祉事業や防犯対策、産業観光、教育・スポーツ振興、協働事業など、潮来市がよりよいまちとなるよう活用しています。

【寄附金の使い道】

- **福祉関連**
医療福祉事業、地域医療体制支援事業 など
- **生活環境関連(自然環境保護、防災・防犯)**
美化推進事業、防犯対策費 など
- **産業・観光関連**
あやめまつり大会事業 など
- **教育・スポーツ関連**
学習端末等整備事業、スポーツ大会事業 など
- **協働関連**
花菖蒲花いっぱい運動 など